

### 第3節 暮らしの再生

#### I 丹沢大山地域の「暮らしの曼荼羅」

栗原伸治<sup>1)</sup>

"Mandala of livelihood" in Tanzawa-Oyama

Shinji Kurihara

#### 要約

本稿では、丹沢大山地域8市町村(2005年現在)の市町村史等の文献資料から、各地域の特徴的な暮らしの要素を抽出し、それらをもとに、地域別の暮らしの特徴が一目で把握できるような「曼荼羅」風の図を作成した。この丹沢大山地域の「暮らしの曼荼羅」は、丹沢山塊が中心、図の上下左右がそれぞれ北南西東に対応して、中心から外にむかう同心円は山—山際—集落—農地—川という断面構成に対応している。そこに抽出した暮らしに関する各地域での特徴的な要素を描いていった。

#### 1. はじめに

本稿の目的は、丹沢大山地域における地域別の暮らしの特徴を把握できるように、それが一目でわかるような図を作成することにある。そのために、まずは丹沢大山地域8市町村(2005年現在)の市町村史等の文献資料を参考に、かつてと現在の丹沢大山の各地域における暮らしについて、その特徴的な要素を抽出した。そのうえで、丹沢山塊を中心に、方位(東西南北)および景観域を意識しつつ、「曼荼羅」風の図を作成した。

#### 2. 各市町村の特徴的な暮らしの要素の抽出

市町村史等、文末にしめした文献資料を参考に抽出した、各市町村の概要、およびかつてと現在の丹沢大山の各地域における特徴的な暮らしの要素を8市町村別にしめすと以下ようになる。

##### (1) 山北町

山北町は東京から西へ80km、神奈川県西部に位置し、緑深い丹沢の山々に抱かれた町である。広さは224.70km<sup>2</sup>で、横浜市に次ぎ神奈川県内第2位の面積があり、その約90%は丹沢大山国定公園と県立自然公園などの山岳地帯である。

ここでは、表1にしめすように、水に関するセギやフネ、住居に関するコエー、クラヤ、ムロ、寄棟造りが主流などの「伝統的」かつ特徴的な暮らしの要素がみられる。

##### (2) 松田町

松田町は足柄地域にあり、足柄上郡の中心的な町である。酒匂川と川音川および中津川とそれらの支流となるいくつかの河川流域によって形成されている。町は松田惣領、松田庶子、神山(こうやま)および寄(やどりき)の4地区からなる。寄地区が丹沢山塊の南端となる中津川流域を担い、南方に足柄平野北端であり酒匂川東岸をなす松田惣領、松田庶子が存在する。川音川を挟んで南東方向には神山地区がある。現在の松田町は丹沢登山の主要な出発点のひとつとなっており、また町内を流れる酒匂川、川音川、中津川は鮎、山女魚、虹鱒等の釣り地として知られる。

ここでもセギ、フネがみられ、住居は寄棟造りが主流であ

る。また、水はけのよい土地を利用した茶やみかん栽培がさかんである。

##### (3) 津久井町

津久井町は神奈川県北西部に位置し、北に道志川が流れ、丹沢山塊の北斜面にあたる地域である。相模川をせき止めてできた津久井湖や宮ヶ瀬ダムなど、神奈川県の水源地として有名である。2004年、津久井郡城山町、津久井町、藤野町、相模湖町、相模原市との合併が提案され、協議会が設置された。城山町、藤野町が反対により協議会を脱退したのをきっかけに、相模原市、津久井町、相模湖町の1市2町による「飛び地合併」に向けての協議会が設置された。3度の協議の結果、反対派を賛成派が上回り、2005年3月14日に合併が可決された。合併の期日は2006年3月20日、新市名称は「相模原市」で、旧津久井町は相模原市の「津久井町地域自治区」となった。

ここでは、「伝統的」に炭焼きやオーガリ(焼畑)がおこなわれ、道志川での漁猟や舟運、筏流しもさかんであった。とくに津久井町青根地区では、かつては至るところに水車があった。また、住居は、入母屋あるいはカブト造りのものが多く、野菜などを保存するムロも特徴的である。

##### (4) 秦野市

秦野市は、神奈川県中央の西部に位置し、東部は伊勢原市、西部は松田町、大井町、南部は中井町、平塚市、北部は厚木市、清川村、山北町に接しており、面積は103.61km<sup>2</sup>で、県内19市中4位の広さを持つ。東京からは約60km、横浜から約37kmの距離にあり、北方には丹沢山塊が連なり、南方には渋沢丘陵が東西に走り、県下で唯一の典型的な盆地を形成している。

この特産品としては、葉タバコ、秦野大根、秦野木綿などがある。住居は、山北町や松田町とおなじく、寄棟造りの民家が主流である。

##### (5) 伊勢原市

神奈川県ほぼ中央に位置する伊勢原市は、南部を平塚市、西部を秦野市、北東部を厚木市と接して、東西間に東名高速道路、国道246号、小田急電鉄が走っている。東京からは東名高速で30分、新宿から小田急で60分、距離にして50km、横浜からも30kmの位置にあり、首都

1) 日本大学生物資源科学部生物環境工学科

表 1. 山北町における特徴的な暮らしの要素

水	セギ・・集落の各家をながれる用水。セギの何箇所かを板で水をせき止めるようにし、ここに一段低くなったセギバタを設け、あらいものをした。 フネ・・沢から竹樋を何本もつないで集落まで引いてきた水をためる岩をくりぬいた水槽。
農業	茶の栽培、養蚕。
住居	コエー・・母屋のほかに農作業や日常生活に必要な建物。一棟をいくつかに仕切って使用。 クラヤ・・大事な家財を守るための別棟の建物。 ムロ・・5、6尺程の深さにほり、大きさは二間四方。冬場の副業として糞仕事等した。 寄棟造りが主流。

表 2. 松田町における特徴的な暮らしの要素

水	セギ・・集落の各家をながれる用水。セギの何箇所かを板で水をせき止めるようにし、ここに一段低くなったセギバタを設け、あらいものをした。 フネ・・沢から竹樋を何本もつないで集落まで引いてきた水をためる岩をくりぬいた水槽。
農業	水はけのよい土地を利用した茶、みかん栽培など。
住居	寄棟造りが主流。

表 3. 津久井町における特徴的な暮らしの要素

山仕事	炭焼き・・柏・楓、杉、檜は幕府の御立木だったのでそれ以外での山稼ぎがあった。昭和9年木炭が県北の特産物になる。その後、戦中には木炭大国となった。
農業	オーガリ・・焼畑のこと。6月に粟、9～11月にソバ、マメを、2、3年後には桑を植える。 養蚕業・・桑、桑兒に適した山間気候と他に流出できない子女の労働力によってさかんになる。戦後酪農にとって代わられる。 酪農・・養蚕不況と豊富な野草によりさかんとなる。
水仕事	漁撈・・多様な漁法があった。 舟運、筏流し・・村民の数少ない収入源。高瀬舟を利用した物資運搬、木材を流した。 特に青根地区では、至るところに水車があった。
住居	入母屋、またはカブト造りという特徴ある妻を持つ形式。 ムロ・・野菜などを保存する。

表 4. 秦野市における特徴的な暮らしの要素

農業	特産品として、葉タバコ、秦野大根など。集落の民家の周りでは主に自給用の作物や綿を栽培。たばこの専売制導入に際して、工場などで藍色の秦野木綿が作られるようになる。
水	湧き水や井戸水を利用。 地下水が地下深く、井戸水が中々手に入らない場所では近所から貰い受けていた。 江戸時代に曾屋用水を苦勞してつくる。 水汲みは女の仕事。
住居	寄棟民家が主流。

表 5. 伊勢原市における特徴的な暮らしの要素

食	清流を利用した、精進料理としての大山豆腐、ソバ。
神社・寺	大山阿夫利神社、大山寺などがあり、古くから大山街道を通じての大山詣でにぎわった

表 6. 厚木市における特徴的な暮らしの要素

道	柏尾通り大山道、矢倉沢往還を使って相模地方の物産などが運ばれていた。大山参詣路としても利用されたため、「大山道」の道標が多く建てられ、旅行く人々に安心感を与えた。生麦事件をきっかけに東海道の品川から平塚の間を矢倉沢往還に付け替える計画があったが、実行されなかった。村の道は日常的に使用する村人によって管理補修されていた。村人は藤沢宿、平塚宿、大磯宿、小田原宿などの助郷をつとめていた。
水運	厚木の語源は「アツメギ」といって、道志川や相模川上流から一本一本流れてきた木材を束ねて下流に流す中継地点だったところからきているという説がある。かつては河港で栄えた。

表 7. 愛川町における特徴的な暮らしの要素

産業	江戸時代から半原での絹糸など繊維産業がさかんであった。 明治からは座敷ぼうきをつくる。 酪農がさかん。
川	中津川馬渡の河原において木組みをしていかだ流しをしていた。
神社	八菅神社は、かつては山伏の修験場だった。

表 8. 清川村における特徴的な暮らしの要素

山仕事	炭焼き、林業。馬で周辺の厚木や伊勢原などの宿場町へ炭を送っていた。
川	周辺の川から中津川まで筏を組んで流していた。
農業・特産品	マメをつくり、丹沢味噌が有名。

圏の近郊都市としての性格も強い。総面積 55.52km<sup>2</sup>のうち、山林原野が約 1/3 を占め、丹沢大山国定公園の一角に位置するシンボル「大山」を頂点として、東部には豊かな平野部が広がり、鈴川、善波川、日向川、歌川といった清流が流れている。伊勢原の名は、江戸時代に伊勢の国から移り住んだ人々がこの地を開拓したところからついたもので、当時大山詣りの宿泊地としておいおいにぎわった。

ここには大山阿夫利神社や大山寺などがあり、古くから大山詣でにぎわっていた。そして、清流を利用した精進料理としての大山豆腐、ソバなどの食文化が育まれてきた。

### (6) 厚木市

厚木市は、神奈川県中央に位置し、西は大山を境に秦野市と、西から北にかけては愛甲郡清川村、愛川町と、北から東にかけては相模川をはさみ相模原市、座間市、海老名市、高座郡寒川町と、また南は平塚市、伊勢原市の計 6 市 2 町 1 村に接している。地勢は西北から東南に緩やかに傾斜し、西部及び西北部は山岳地帯で小山脈が南北に走り、西部においては阿夫利の峰大山がそびえ、丹沢山塊へと連なる。市の東部は、遠く富士五湖の一つである山中湖に源を発する相模川の清流が南北に貫通し、これに併流する中津川、そして小鮎川、これら河川の流域に平野が開けている。東西 13.68km、南北 14.80km の扇形に近い地形で、面積 93.83km<sup>2</sup> を有す。

ここは、ふるくから陸の道と水の道の拠点として栄えた。水の道の拠点としては、道志川や相模川上流から一本一本流れてきた木材を束ね下流に流すということがおこなわれており、その中継地点は「アツメギ」と呼ばれていた。これが厚木の語源だとする説もある。

### (7) 愛川町

愛川町は、神奈川県北部に位置する町である。昭和 40

年代初頭に内陸工業団地が進出してから農村地域から工業、住宅地域へと姿を変えていき現在に至る。町の中央に中津川が流れ、西部に丹沢山塊を抱える。

ここでは江戸時代から繊維産業がさかんで、明治時代からは座敷ぼうきもつくっていた。また、酪農もさかんである。

### (8) 清川村

清川村は、神奈川県北部に位置する県内で唯一の村である。隣接する厚木市は旧愛甲郡だったことから関係が深く、宮ヶ瀬ダム建設によりその大部分が水没した宮ヶ瀬地区の住民の多くは、代替地として同市が整備した宮の里地区に移住している。丹沢東山麓に位置し、北東は仏果連山を境に愛甲郡愛川町、厚木市、北西は、丹沢山塊を境に津久井郡津久井町、足柄上郡山北町、南は秦野市、厚木市に接しており、東西 12.6km、南北 9km、総面積は 71.29km<sup>2</sup> である。面積の 93% が山林で占められており、煤ヶ谷には小鮎川、宮ヶ瀬には中津川と早戸川がそれぞれ渓谷美や清流をつくっている。

ここでは、炭焼き、林業がさかんであった。かつては炭を厚木や伊勢原などの宿場町に馬で運んでいた。また、周辺の川から中津川まで筏を組んで流したりもしていた。

## 3. 「暮らしの曼荼羅」の作成

以上のような、丹沢大山地域 8 市町村の市町村史等の文献資料を参考にピックアップした、かつてと現在の丹沢大山各地域における特徴的な暮らしの要素をもとに、丹沢大山地域の暮らしについて曼荼羅風に描いてみた。この丹沢大山地域の「暮らしの曼荼羅」では、丹沢山塊が中心で、図の上下左右がそれぞれ北南西東に対応して、中心から外にむかう同心円は山—山麓—集落—農地—川という断面構成に対応している。そこにピックアップした暮らしに関する各地域での特徴的な要素を描いていったものである。

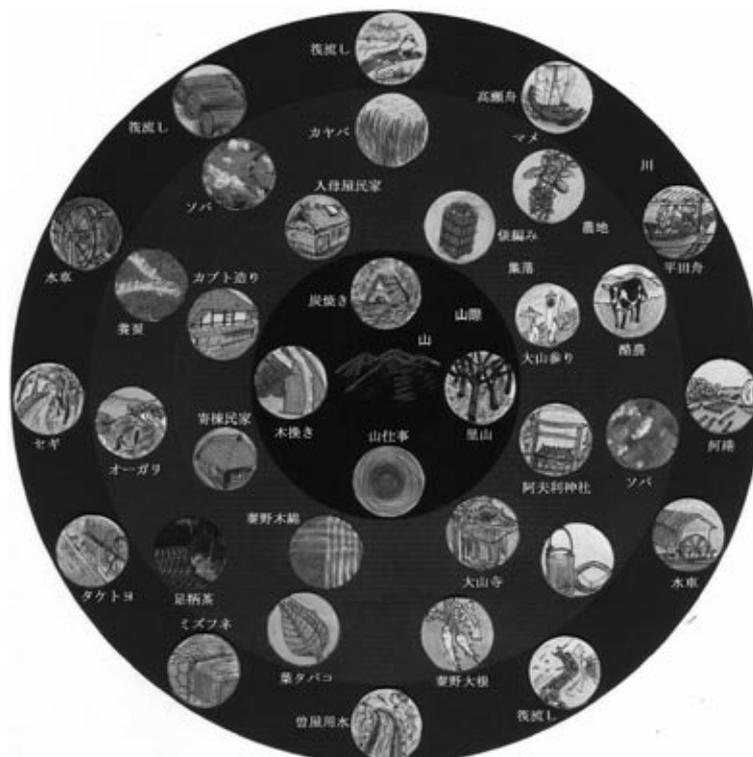


図 1. 丹沢大山地域の「暮らしの曼荼羅」(竹内奈穂 作成) 口絵参照。

## 文 献

- 天野 益, 2001. 津久井の木炭. ふるさと津久井, (2): 6-13.
- 秦野市編, 1982. 秦野市史 第二巻 近世史料 1. 781pp. 秦野市.
- 秦野市編, 1987. 秦野市 別巻 民俗編. 820pp. 秦野市.
- 秦野市管理部文書課市史編さん担当, 1996. 図説 秦野の歴史年表<稿>. 31pp. 秦野市.
- 秦野市教育委員会編, 1998. 秦野のすまい(1)―農家編―. 80pp. 秦野市教育委員会.
- 秦野市立桜土手古墳展示館 東海大学校地内遺跡調査団編, 丹沢を仰ぐ縄文遺跡―後・晩期の隆盛―. 27pp. 秦野市・東海大学.
- 入江英弥, 2003. 山北町の道祖神祭り―神奈川県足柄上郡山北町の道祖神祭祀の実態(4)―. 足柄乃文化, (30): 51-63.
- 伊勢原町教育委員会編, 1968. 原本 伊勢原町史年表. 77pp. 伊勢原町.
- 永井善行(話者), 2001. ふるさと聞き書き① 山仕事の日々. ふるさと津久井, (2): 28-43.
- 高橋 尹(話者), 2001. ふるさと聞き書き② 津久井の薪炭を販売していた頃. ふるさと津久井, (2): 44-56.
- 津久井町文化財保護委員会編, 1992. つくい町の古道. 70pp. 津久井町教育委員会.
- 津久井町文化財保護委員会編, 1994. つくい町の地名. 142pp. 津久井町教育委員会.
- 津久井町文化財保護委員会編, 2000. 津久井町の歴史今昔. 111pp. 津久井町教育委員会.
- 津久井町郷土誌編集委員会, 1987. 津久井町郷土誌. 670pp. 津久井町教育委員会.
- 津久井町教育委員会. つくい町 文化財 歴史地図.
- 津久井町史編集委員会編, 2002. ふるさと津久井 3(特別号) 津久井の古地図. 48pp. 津久井町役場企画政策室.
- 渡辺文雄, 2003. 太神社(秋葉神社)の変遷. 足柄乃文化, (30): 39-50.
- 山口文一, 1991. やまびこ―続丹沢山麓雑記―. 201pp. 神奈川新聞出版局.
- 山口文一, 2001. 津久井にあった山仕事いろいろ. ふるさと津久井, (2): 1-5.

- 山北町編, 2003. 山北町史 資料編 近世. 1420pp. 山北町.
- 山北地方史研究会, 2003. 足柄乃文化, (30). 112pp. 山北地方史研究会.
- 図説秦野の歴史編集委員会編, 1995. 図説 秦野の歴史. 239pp. 秦野市.

## 電子文献

- 愛川町, 2002. 愛川町ホームページ. Online. Available from internet: <http://www.town.aikawa.kanagawa.jp/> (downloaded on 2005-12-20).
- 厚木市, 2004. 厚木市ホームページ. Online. Available from internet: <http://www2.city.atsugi.kanagawa.jp/> (downloaded on 2005-12-20).
- 秦野市, 2003. 秦野市ホームページ. Online. Available from internet: <http://www.city.hadano.kanagawa.jp/> (downloaded on 2005-12-20).
- 伊勢原市, 1999. 伊勢原市ホームページ. Online. Available from internet: <http://www.city.isehara.kanagawa.jp/> (downloaded on 2005-12-20).
- 清川村, 2005. 清川村ホームページ. Online. Available from internet: <http://www.town.kiyokawa.kanagawa.jp/> (downloaded on 2005-12-20).
- 松田町, 2002. 松田町ホームページ. Online. Available from internet: <http://town.matsuda.kanagawa.jp/> (downloaded on 2005-12-20).
- 相模原市, 2006. 相模原市ホームページ. Online. Available from internet: <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/> (downloaded on 2005-12-20).
- 山北町, 2001. 山北町ホームページ. Online. Available from internet: <http://www.town.yamakita.kanagawa.jp/> (downloaded on 2005-12-20).

※本稿は、竹内奈穂「上流と下流を社会・経済的につなぐシステム・施設の提案～丹沢大山の地域再生プロジェクトその6～」(2005年度日本大学生物資源科学部卒業論文)の第二章「丹沢大山地域での暮らしの曼荼羅」をもとに、加筆・修正したものである。